

吹上小学校だより 「 夢いっぱい 輝く瞳 光る汗 」 令和2年9月30日



コスモス

神無月

No. 6

【知】 進んで学びよく考える子 【徳】 明るく思いやりのある子 【体】 たくましくねばり強い子



「区切りをつける」



校長 荻野 浩

9/19（土）は、保護者の皆様・地域の皆様のご理解とご協力の下、運動会を開催することができました。誠にありがとうございました。

今年は、新型コロナウイルス対策として、児童の演技種目を削減し、参観者を制限して、低・中・高学年のブロック毎に行う形の運動会としました。また、地域の皆様や保護者以外のご家族の皆様には、感染症拡大防止の観点から、残念ながら子どもたちの演技をご覧いただくことができず、申し訳なく思っております。一刻も早く、新型コロナウイルスが収束し、多くの方々に気兼ねなく、大きな声援をいただきながら、ご参観していただける日が来ることを、強く願うばかりです。

当日は、小雨模様ではありましたが、最後まで熱心に多くの方にご参観いただいたことは、学校としても大変嬉しく、ありがたいことです。授業参観・学校公開等がなかなかできない今、子どもたちの活躍する姿を、少しでも直接見ていただく機会を、今後検討していかなければと考えております。無理をせず、可能な範囲で、子どもたちの健康安全に配慮しながら取り組んで参りますので、ご理解のほどよろしく申し上げます。

区切りをつける

新型コロナウイルスが流行している中、社会全体に、当たり前のようにあった「区切りをつける」活動〔取組〕が、見られなくなっていると感じています。これが終わったら、一息ついて打ち上げをしようとか、〇〇の発表を目指してしっかり練習しようなどと、日々の生活の中に「区切り」がありました。自分を含め、多くの方々が、その「区切り」に向かって、計画を立て準備を進め、取り組んでいました。順調に進むこともあれば、課題にぶつかり、時間だけが過ぎてしまい、もやもやすることもありましたが、「区切り」に辿り着いたときの安堵感に浸る瞬間は、なんとも言えない感覚だったと思います。

しかし、現在では、新型コロナウイルスの拡大防止のために、みんなで集まることや、各種の大会や発表会が中止され、「区切り」がつけにくい状況です。その意味でも、9/19（土）の運動会は、子どもたちや保護者の皆さんにとっても、そして私たち教職員にとっても、大きな「区切り」となりました。子どもたちの感想にも、「練習したことが本番でもできて嬉しかった。」「もっとできたと思うと悔しかった。」という、練習への取組や運動会当日のできばえについて、記したものが多く見られました。自分を振り返り、良くも悪くも自分なりに「区切り」をつけることができたのだと思います。

自分の取組や結果に区切りをつけることは、次への一步に繋がります。「区切り」をつけにくい生活ですが、つけ方を工夫して、明日への意欲に繋がりたいと感じる今日この頃です。